

目的 近年、果樹なかでも「ぶどう」栽培にハウスが導入される傾向にある。このような露地・ハウスの両栽培体系で経営をおこなっている作業従事者の、周年の生活時間構成を明らかにすること。また、ぶどう作業による疲労の実態・特徴を把握し、生活時間（農業労働・休憩・睡眠）との関連をも明らかにし、今後の健康管理の指針をえる。

方法 「ぶどう」栽培においては、婦人の基幹的労働力として占める割合が高い。従って、「ぶどう」栽培農家の経営主とその妻の一年間の生活時間調査と自覚疲労調査を実施した。実施期間は、昭和53年4月1日から54年3月31日までの一年間。

結果 ①、「ぶどう」栽培は、ハウス栽培率の増加にともない周年作業となり農休日が極端に減少した。年間6時間以上の作業従事日数は、経営主、妻ともに250日前後を占める。②、妻には、これに家事労働時間が加わり、睡眠時間よりも社会的・文化的な生活時間への影響がみられる。③、ぶどう作業は、棚作業を主とした不自然な姿勢とかなりな注意集中をともなうやや重い神経労働と筋肉労働であること。④、自覚疲労症状からみると、従来の肉体作業型よりも精神作業型の訴え傾向にある。⑤、以上のことから、農繁閑差が縮小し、疲労の回復がなされるだけの休養が確保されない状況にあるため、疲労が蓄積する傾向にある。